

平成 14年 3月期 個別財務諸表の概要

平成 14年 5月 24日

上場会社名 東邦亜鉛株式会社

上場取引所 東大名福札

コード番号 5707

本社所在都道府県

問合せ先 責任者役職名 経理部長

東京都

氏名 多々良大爾

TEL (03) 3272 - 5614

決算取締役会開催日 平成 14年 5月 24日

中間配当制度の有無 有

定時株主総会開催日 平成 14年 6月 27日

1. 14年 3月期の業績 (平成 13年 4月 1日 ~ 平成 14年 3月 31日)

(1)経営成績

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | |
|---------|--------|------|-------|------|-------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 14年 3月期 | 45,187 | 10.8 | 2,080 | 33.7 | 1,643 | 19.2 |
| 13年 3月期 | 50,638 | 1.3 | 3,138 | 71.7 | 2,032 | 62.1 |

| | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 | | 株主資本 当期純利益率 | 総資本 経常利益率 | 売上高 経常利益率 |
|---------|-------|------|----------------|------|----------------|--------------|--------------|
| | 百万円 | % | 円 | 銭 | | | |
| 14年 3月期 | 429 | 40.3 | 3.41 | 2.97 | 1.7 | 2.2 | 3.6 |
| 13年 3月期 | 718 | - | 5.71 | 4.85 | 2.9 | 2.6 | 4.0 |

(注) 期中平均株式数 14年 3月期 125,819,217 株 13年 3月期 125,819,217 株

会計処理の方法の変更 無

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益におけるパーセント表示は、対前期増減率

(2)配当状況

| | 1株当たり年間配当金 | | | 配当金総額 (年間) | 配当性向 | 株主資本 配当率 |
|---------|------------|------|------|---------------|------|-------------|
| | 円 | 銭 | 円 | | | |
| 14年 3月期 | 3.00 | 0.00 | 3.00 | 377 | 88.0 | 1.5 |
| 13年 3月期 | 3.00 | 0.00 | 3.00 | 377 | 52.6 | 1.5 |

(注) 14年 3月期期末配当金の内訳 記念配当 - 円 銭、特別配当 - 円 銭

(3)財政状態

| | 総資産 | | 株主資本 | | 株主資本比率 | 1株当たり株主資本 |
|---------|--------|---|--------|---|--------|-----------|
| | 百万円 | 円 | 百万円 | 円 | | |
| 14年 3月期 | 75,218 | | 25,080 | | 33.3 | 199.34 |
| 13年 3月期 | 77,443 | | 25,383 | | 32.8 | 201.74 |

(注) 期末発行済株式数 14年 3月期 125,819,217 株 13年 3月期 125,819,217株

2. 15年 3月期の業績予想 (平成 14年 4月 1日 ~ 平成 15年 3月 31日)

| | 売上高 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり年間配当金 | | |
|-----|--------|-------|-------|------------|------|------|
| | | | | 円 | 銭 | 円 |
| 中間期 | 22,000 | 530 | 180 | 0.00 | - | - |
| 通期 | 46,000 | 1,800 | 700 | - | 3.00 | 3.00 |

(参考) 1株当たり予想当期純利益 (通期) 5円 56銭

比較損益計算書(個別)

(百万円未満切捨)

| 期 別 | | 当 期 13.4.1 ~ 14.3.31 | 前 期 12.4.1 ~ 13.3.31 | 対前期比 増減() |
|----------------------------|--------------|-------------------------|-------------------------|---------------|
| 科 目 | | | | |
| 経 常 損 益 の 部 | 営業収益 | | | |
| | 売 上 高 | 45,187 | 50,638 | 5,451 |
| | 営業費用 | 43,106 | 47,499 | 4,393 |
| | 売上原価 | 37,972 | 42,107 | 4,135 |
| | 販売費及び一般管理費 | 5,134 | 5,392 | 258 |
| | 営業利益 | 2,080 | 3,138 | 1,058 |
| | 営業外収益 | 386 | 653 | 267 |
| | 受取利息及び配当金 | 262 | 123 | 139 |
| | 雑収入 | 123 | 530 | 407 |
| | 営業外費用 | 823 | 1,759 | 936 |
| 支払利息 | 324 | 387 | 63 | |
| 雑損失 | 499 | 1,372 | 873 | |
| 経常利益 | 1,643 | 2,032 | 389 | |
| 特 別 損 益 の 部 | 特別利益 | 57 | 1 | 56 |
| | 償却債権取立益 | - | 1 | 1 |
| | 固定資産売却益 | 45 | 0 | 45 |
| | 貸倒引当金戻入益 | 11 | - | 11 |
| | 特別損失 | 894 | 750 | 144 |
| | 固定資産除却損 | 136 | 347 | 211 |
| | 投資有価証券評価損 | 358 | 23 | 335 |
| | 投資有価証券売却損 | 123 | - | 123 |
| | 会員権評価損 | 11 | 108 | 97 |
| | 退職給付費用 | 245 | 245 | 0 |
| その他特別損失 | 17 | 25 | 8 | |
| 税引前当期利益 | | 805 | 1,283 | 478 |
| 法人税及、住民税及び事業税 | | 287 | 1,149 | 862 |
| 法人税等調整額 | | 89 | 584 | 673 |
| 当期利益 | | 429 | 718 | 289 |
| 前期繰越利益 | | 579 | 237 | 342 |
| 当期末処分利益 | | 1,008 | 955 | 53 |

比較利益処分案

(百万円未満切捨)

| 科 目 \ 期 別 | 当 期 (13.4.1 ~ 14.3.31) | 前 期 (12.4.1 ~ 13.3.31) |
|----------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 当期末処分利益 | 1,008 | 955 |
| 当期末処理損失 | - | - |
| 固定資産圧縮積立金取崩額 | 38 | 41 |
| 合 計 | 1,046 | 996 |
| これを次の通り処分いたします | | |
| 利 益 準 備 金 | - | 40 |
| 利 益 配 当 金 | 377 一株につき 3.0円 (普通配当 3.0円) | 377 一株につき 3.0円 (普通配当 3.0円) |
| 次期繰越利益 | 669 | 579 |

(注)利益配当金は、当期末の発行済株式の総数から自己株式 3,061株 を除いて算定したものであります。

重要な会計方針

(1)有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的債券：償却原価法

子会社株式及び関連会社株式：移動平均法による原価法

その他有価証券：時価のあるもの…移動平均法による原価法
：時価のないもの…移動平均法による原価法

(2)棚卸資産の評価基準及び評価方法

製品・商品、半製品・仕掛品、原材料：後入先出法(一部移動平均法)による原価法

貯蔵品：移動平均法による原価法

(3)固定資産の減価償却の方法

有形固定資産の減価償却の方法：定額法

無形固定資産の減価償却の方法：定額法

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(4)繰延資産の処理方法：社債発行費は3年間で均等償却しております。

(5)外貨建短期金銭債権債務の換算基準：期末決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(6)引当金の計上基準

貸倒引当金：

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し回収不能見込額を計上しております。

退職給付引当金：

従業員の退職給付に備えるため、当会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。なお、会計基準変更時差異(1,229百万円)については、5年による按分額を費用処理しております。

数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により、翌期から費用処理をすることにしております。

役員退職慰労引当金：

役員の退職慰労金の支払に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。この役員退職慰労引当金は商法287条/2の引当金であります。

金属鉱業等鉱害防止引当金：

金属鉱業等鉱害対策特別措置法に基づく特定施設の使用終了後の鉱害防止事業に備えるため、同法第7条1項の規定による積立金相当額を商法第287条/2の引当金として計上しております。

(7)リース取引の処理

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(8)ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法：繰延ヘッジ処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象：ヘッジ手段は、商品先物取引。ヘッジ対象は、国際相場の影響を受ける製品等。

ヘッジ方針：原料・製品等の価格変動リスクを回避する目的。

ヘッジ有効性評価の方法：商品先物取引については、ヘッジ開始時から有効性判定時までの期間において、ヘッジ対象及びヘッジ手段の相場変動の累計を比較し、有効性を判定しております。

(9)消費税等の会計処理：消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

追加情報

(1)自己株式

前事業年度において資産の部に計上していた「自己株式」（流動資産0百万円）は、「株式会社の貸借対照表、損益計算書、営業報告書及び附属明細書に関する規則の一部を改正する省令」（平成13年9月12日公布法務省令第66号）に基づき、当事業年度末においては資本の部の末尾に表示しております。

(2)金融商品会計の適用

当事業年度からその他有価証券のうち時価のあるものの評価の方法について、金融商品に係る会計基準（「金融商品に係る会計基準の設定に関する意見書」（企業会計審議会平成11年1月22日））を適用しております。

なお、従来の方法によった場合と比較してその他有価証券評価差額金が 337百万円計上されたほか、投資有価証券が583百万円減少し、繰延税金資産が245百万円増加しております。

注記事項

貸借対照表

(1)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(2)子会社に対する債権・債務

| | |
|-------------|-----------|
| 子会社に対する短期債権 | 4,336 百万円 |
| 子会社に対する長期債権 | 590 百万円 |
| 子会社に対する短期債務 | 326 百万円 |
| 子会社に対する長期債務 | 10 百万円 |

(3)有形固定資産の減価償却累計額 51,919 百万円

(4)自己株式 3061株 0 百万円

(5)担保に供されている資産

| | |
|--------|------------|
| 有形固定資産 | 29,713 百万円 |
| 投資有価証券 | 154 百万円 |

(6)保証債務額 7 百万円

(7)その他の投資等には、子会社出資金 6百万円が含まれております。

(8)新株引受権付社債の新株引受権の残高及び行使価格(貸借対照表日現在)は下記のとおりです。

| | 残高 | 行使価格 |
|-------------|--------|--------|
| 第1回新株引受権付社債 | 500百万円 | 250.0円 |

(9)期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、当会計期間の末日は金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形は、次のとおりであります。

| | |
|------|---------|
| 受取手形 | 677 百万円 |
| 支払手形 | 265 百万円 |

(10)改正土地評価法の適用

「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日に公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成11年3月31日改正)に基づき事業用の土地の再評価を行い、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「再評価差額金」として資本の部に計上しております。

「土地の再評価に関する法律」及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」第3条第3項に定める再評価の方法については、土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第4条第3号に定める地方税法(昭和25年法律第226号)第341条第10号の土地課税台帳又は同条第11号の土地補充課税台帳に登録されている価格に合理的な調整を行って算定する方法により算出しております。

| | |
|---------------------|------------|
| 再評価を行った年月日 | 平成12年3月31日 |
| 再評価を行った土地の期末における時価と | 1,131 百万円 |
| 再評価後の帳簿価格との差額 | |

(11)1株当たりの当期利益 3円41銭

(12)再評価差額金(7,836百万円)は、土地の再評価に関する法律第7条の2第1項の規定により、配当に充当することが制限されております。

注記事項

損益計算書

1.記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

2.子会社との取引

| | |
|------------|-----------|
| 子会社に対する売上高 | 3,222 百万円 |
| 子会社に対する仕入高 | 4,307 百万円 |
| 営業取引以外の取引高 | 239 百万円 |

3.リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

| | 機械装置及び 運搬具 | 工具・器具・備 品 | 合計 | |
|------------|---------------|--------------|-----|-----|
| 取得価額相当額 | 32 | 268 | 300 | 百万円 |
| 減価償却累計額相当額 | 16 | 169 | 186 | 百万円 |
| 期末残高相当額 | 16 | 96 | 114 | 百万円 |

(2) 未経過リース料期末残高相当額

| | |
|-------|---------|
| 1 年以内 | 52 百万円 |
| 1 年超 | 61 百万円 |
| 合計 | 114 百万円 |

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

| | |
|---------|--------|
| 支払リース料 | 59 百万円 |
| 減価償却相当額 | 59 百万円 |

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

| | | |
|--------------|-------|-----|
| 退職給付引当金 | 1,120 | 百万円 |
| 退職給与引当金繰入超過額 | - | |
| 賞与引当金繰入超過額 | 141 | |
| たな卸資産評価損 | 208 | |
| その他有価証券評価差額金 | 245 | |
| その他 | 285 | |
| 繰延税金資産小計 | 2,000 | |
| 評価性引当額 | - | |
| 繰延税金資産合計 | 2,000 | |

(繰延税金負債)

| | |
|-----------|-------|
| 固定資産圧縮積立金 | 94 |
| 繰延税金負債合計 | 94 |
| 繰延税金資産の純額 | 1,906 |

(繰延税金負債)

| | |
|--------------|-------|
| 再評価に係る繰延税金負債 | 5,698 |
|--------------|-------|

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

| | |
|----------------------|-------|
| 法定実効税率 | 42.1% |
| (調整) | |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 3.6 |
| 受取配当金等永久に損金に算入されない項目 | 8.0 |
| 住民税均等割等 | 3.4 |
| その他 | 5.7 |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 46.8 |

売上高比較表（個別）

(百万円未満切捨)

| | 当 期 (13.4.1 ~ 14.3.31) | | | 前 期 (12.4.1 ~ 13.3.31) | | | 対前期比 増減() | | |
|---------|-----------------------------|---------------|-----------|-----------------------------|---------------|-----------|---------------|--------------|----------------|
| | 数 量 | 金 額 | 金額構成 比 | 数 量 | 金 額 | 金額構成 比 | 数 量 | 金 額 | 対前期比 増減()率 |
| 亜鉛製品 | t 130,703 | 百万円 16,705 | % 37.0 | t 142,471 | 百万円 21,027 | % 41.5 | t 11,768 | 百万円 4,322 | % 20.6 |
| 鉛 製 品 | t 65,911 | 5,727 | 12.7 | t 78,872 | 6,182 | 12.2 | t 12,961 | 455 | 7.4 |
| 電 気 銀 | Kg 243,716 | 4,304 | 9.5 | Kg 216,104 | 3,731 | 7.4 | t 27,612 | 573 | 15.4 |
| 酸化亜鉛 | t 15,514 | 2,032 | 4.5 | t 13,951 | 1,924 | 3.8 | t 1,563 | 108 | 5.6 |
| 硫 酸 | t 260,375 | 1,441 | 3.2 | t 284,104 | 1,751 | 3.5 | t 23,729 | 310 | 17.7 |
| 電子部品 | | 5,725 | 12.7 | | 6,424 | 12.7 | | 699 | 10.9 |
| 金属加工品 | | 2,023 | 4.5 | | 2,359 | 4.7 | | 336 | 14.3 |
| リサイクル事業 | | 1,802 | 4.0 | | 1,650 | 3.3 | | 152 | 9.2 |
| その他 | | 5,425 | 12.0 | | 5,590 | 10.9 | | 165 | 3.0 |
| 合 計 | | 45,187 | 100.0 | | 50,639 | 100.0 | | 5,452 | 10.8 |
| 内輸出額 | | 1,085 | 2.4 | | 779 | 1.5 | | 306 | 39.2 |

役員の変動

平成14年6月27日付

1. 新任取締役候補

手島達也(常務取締役) (現 常務執行役員 亜鉛・鉛事業本部長兼原料部長)

2. 退任予定取締役

大石 誠 (顧問) (現 代表取締役専務)

米岡良修 ((株)ティーディー代表取締役社長) (現 (株)ティーディー代表取締役社長)

3. 新任執行役員

海保芳和(環境・リサイクル事業部長) (現 環境・リサイクル事業部長)

楠田泰彦(安中製錬所副所長) (現 安中製錬所副所長)

4. 退任執行役員

大石 誠 (現 社長補佐)

大溝泰樹(安中運輸(株)代表取締役社長) (現 安中運輸(株)代表取締役社長)

5. 新体制の内容

(1)取締役および監査役

代表取締役社長 青木 轟 (兼)最高執行役員

常務取締役 手島達也 亜鉛・鉛事業本部長兼原料部長

常務取締役 山宮邦夫 (管理本部長兼経営企画部長・システム統括部長・財務部担当・
経理部担当)

取締役 操上俊夫 (技術・開発本部長兼開発部長・知的財産部長・技術部担当)

取締役 正木昭紀 (総務本部長兼資材統括部長・物流統括部長・環境管理部担当・
秘書室担当・総務部担当・人事部担当)

常勤監査役 渡邊 齊(社外監査役)

常勤監査役 渡邊文彬

監査役 田中清一

執行役員を兼務致します。

(2)執行役員

最高執行役員 青木 轟

常務執行役員 角出光一 小名浜製錬所長

常務執行役員 手島達也 亜鉛・鉛事業本部長兼原料部長

執行役員 井之上幸治 大阪支店長

執行役員 飯田隆俊 亜鉛・鉛事業本部副本部長兼契島製錬所長

執行役員 相原宏美 電子部品事業本部長兼藤岡事業所長・藤岡テクニカルセンター所長

執行役員 武田松夫 亜鉛・鉛事業本部副本部長兼安中製錬所長

執行役員 海保芳和 環境・リサイクル事業部長

執行役員 楠田泰彦 安中製錬所副所長

以上

平成14年5月24日

各位

会社名 東邦亜鉛株式会社
代表者名 代表取締役社長 青木 轟
本社所在地 東京都中央区日本橋本町-丁目6番1号
コード番号 5707
上場取引所 東証・大証・名証各一部、福証、札証
問合せ先 責任者役職名 経理部長
氏名 多々良大爾
TEL 03-3272-5614

資本準備金および利益準備金の減少に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成14年6月27日開催予定の第103回定時株主総会において、下記のとおり資本準備金および利益準備金の減少について付議することを決議しましたので、お知らせいたします。

記

1. 目的

経営環境の変化に迅速かつ柔軟に対応するため、商法第289条第2項に基づき資本準備金および利益準備金を減少するものであります。

2. 資本準備金および利益準備金の減少額

商法第289条第2項に基づき、資本（金10,236,208,899円）の4分の1に相当する額を越えて積み立てられた資本準備金と利益準備金計3,609,562,367円を次のとおり減少し、剰余金に振り替えます。

- (1) 資本準備金5,486,045,860円のうち2,926,993,635円
(減少後の資本準備金は2,559,052,225円)
- (2) 利益準備金682,568,732円の全額

3. 資本準備金および利益準備金減少の日程

- (1) 取締役会決議日 平成14年5月24日
- (2) 株主総会決議日 平成14年6月27日（予定）
- (3) 債権者異議申述最終期日 平成14年8月中旬（予定）
- (4) 効力発生日 同上経過後

以上